

よくわかるIPネットワーク

株式会社ジャバテル 代表取締役 佐々木宏至

【業界での激しい地殻変動】

2014年は映像監視の世界で激しい地殻変動が起きている。まず、筆頭に挙げられるのがキヤノンによるMilestone Systems(マイルストーン・システムズ)社の買収、そしてもう一つがグーグル社によるDropcam(ドロップカム)社の買収だ。その少し前にはAvigilon(アヴィジロン)社のVideolQ社買収があった。そして2013年には、タイコ・グループによるExacq(エグザック)社の買収、Vicon Industry(ヴァイコン・インダストリ)社とIQ Invision社の合併などが話題となった。そこで、今回は業界再編と動向、ストリーミング市場に関して書いてみる。

【業界再編と動向】

マイルストーン社にとってはやっと希望が成就したと言うのが本音かもしれない。数年前に同社の当時の社長は世界各社に対して、会社売却のトップセールスを展開していた。結果的には契約にまで至らず、ベンチャ・キャピタルの投資を受けることになったという経緯があり、今回のキヤノンの買収で、同社はファイナンス的勝利を収めたと言えるだろう。

キヤノンはマイルストーン社の企業体制は当面大きく変わらないと発表しているが、マーケティング面では劇的に変化していくと思う。ズバリ猛烈な価格競争でシェアを取りに行くと思う。所詮業界No.1の称号も世界市場シエ

アはVMSに限定しても8%前後であり、今後、親会社となったキヤノンから30%程度の市場シェア獲得を要求されることも当然かもしれない。

それよりも強烈なのが、グーグル社によるドロップカム社買収だ。正確に言うと、グーグル社が2014年1月に買収したNest Labs社による買収だ。グーグル社はメディア・ストリーミングの実質的リーダーであり、これに監視カメラが加わることで、事業範囲は劇的に拡大する。では、なぜグーグル社はドロップカム社を買収したのか。その答えはハードウェアではなく、彼らの持つクラウドに最適化されたホスティングとストリーミング、そのストリームの暗号化技術だ。ハードウェアなど幾らでも市場に合わせて強化できる。クラウドに関してはこれで勝負は決したとまでは言わないが、既存のクラウド業者にとっては脅威そのものだ。

買収、合併は今後も頻発する。市場の成長率は常にプラスでありながらも、アナログ時代のゆるいビジネスでは生きていけない。カメラ分野では中国企業の価格攻勢の脅威にさらされ、VMS分野では無料のVMSが幾らでも存在し、さらにクラウドの成長と単独で成長していくのは至難になっていく。

その結果、VMS世界市場の上位企業で実質的な完全独立企業はGenetec(ジェネテック)社のみとなってしまった。同社の製品はハイエンドにおいて圧倒的存在感を示し証明してきている。

以前にも書いたが、ソフトウェアの

世界は大が小を兼ねる、大で評価されないシステムは結果として生き残れない、それは歴史が証明している。ただし、大規模に対応できるシステムは高度なITスキルが要求される。それが難しい課題となっている。残念なことに日本市場では比較しうるハイエンド・マーケットがほとんど皆無だ。しかし、私は希望を捨てていない。IT業界の変化を見ても情報漏洩対策には相当な投資が続いている。そして、最後に物理セキュリティの重要性が国内で認知されると信じ希望をもっている。

【ストリーミング市場】

メディア系においてYoutube、国内ではニコニコ動画などその市場規模は極めて大きい。インターネット・ビジネスモデルとしてメディア・ストリーミングは最大規模の投資がなされている分野だ。しかし、これらのサービスはパブリック向けであり、政府機関や企業レベルの市場においては、また開拓の余地が多数ある。

私事で恐縮だが、当社は1999年に事業を開始し2001年に当社独自開発のSupereyesで業界に参入した。その後Supereyesを封印してGenetecの代理店として今日に至っている。

当社がストリーミング市場に注目した契機はスマホやタブレットの爆発的普及にある。当社では以前からセキュリティへの投資はプロフィット(収益)に貢献できると提唱してきた。それは伝統的にデスクトップPCやラップ

トップPCを背景にしたものだった。

しかし、市場は予測を遥かに上回り、スマホ、タブレットが普及している。現在、企業ではPC持ち出し禁止が当然で、PC自体が仮想環境となり、まるで30年前のダムターミナルの様な状況にある。さらに、企業内のセキュリティは極限まで強化され、パケットの通過は80番ポートのhttpプロトコルのみで、それ以外のプロトコルはVPNにおいてのみ許可されるなど、ファイヤウォールが強化されている。そんな環境でVMSをプラットフォームにして、広範囲に利用するには障壁が大きすぎる。

それらを克服するにはメディア・ストリーミング本来の環境を取り込む事が重要なのは言うまでもない。メディア・ストリーミングのデファクト・スタンダード(事実上の標準)はAdobe Flash Live Video (FLV)である。しかし、残念なことにiOSではサポートされず、Androidも4.0以降正式サポートは終わっている。さらに、FLVは企業内のファイヤウォールでブロックされてしまう。

これを回避する手段はhttp80番ポートしかない。それはApple社が開発したHLSだ。ところが、WindowsではHLSを全くサポートしていない。これは当社のノウハウで解決した。Flashが利用可能ならHLSも問題なく対応す

る。つまり、HLSをサポートすることで、ほぼ全ての機器にストリーミング可能となる。

【「どこカメ」とは】

「どこカメ」は、当社がVMSから学んだノウハウをベースに開発した画期的なメディア・ストリーミングである。その主な特長は次の通りである。

- 1) 価格面ではサブスクリプション・ライセンスが不要。ただし、サブスクリプションは使用料として毎月あるいは毎年発生する契約形態となる。
- 2) ノートランスコード・テクノロジー: Docokame Media Serverは一切トランスコードすることなくストリーミングするため、強力な配信パワーを提供する。理論値としてはCore i7プロセッサで4Gbpsの配信能力を提供する。
- 3) 基本のサポート・プロトコルはRTMP(送受)/RTSP(受)/HLS(送)、別途サーバ間通信用TCP/UDP(multicast)独自プロトコル。その他、MMS MPEG2-TSもサポート。
- 4) iOS(iPhone iPad)からRTMP(FLV H.264&AAC)による高品質ライブ配信。
- 5) AndroidからRTMP(FLV



www.docokame.com

H.264&AAC)による高品質ライブ配信。

6) AXIS社、BOSCH社、SONY社 他のIPカメラをダイレクトにRTSP(H.264/AAC)でサポートし、大規模配信を実現する。

7) USBカメラなど各種映像をH.264&AACにトランスコードするDocokameライブエンコーダも用意。

8) VC(ボイスチャット)複数双方向音声をサポート、世界最高レベル音声コーデックOpusを提供、完全な暗号化に対応。BSD LGPL2ライセンス、同時アクセス数の制約なし。

9) アーカイブとSDKのサポート。

VMS連携、Genetec Security Center (GSC)との連携動作プラグインを提供。



Genetec 社 Security Center

世界最高レベルのVMSワークフロー **OMNICAST**

HID マーキュリー AXIS をサポートする入退管理 **SYNERGIS**

自動車ナンバープレート読取 **AUTOVU**

株式会社ジャバテル

www.javatel.co.jp

専門サイト nvr.jp ipcam.tv



本社 〒530-0041 大阪市北区天神橋2-北1-21 八千代ビル東館3F
TEL 06-6354-0100 FAX 06-6136-1155
支店 〒130-0011 東京都墨田区石原1-41-4 TKビル3F
TEL 03-6658-8726 FAX 03-5637-7834